

様式第6号（第10条関係）

令和3年2月5日

広陵町長 殿

申請者 所在地 奈良県北葛城郡広陵町大字大塚 576-1
団体名 六道山区ファミリー農園耕作者グループ
代表者氏名 吉川英敏

広陵町まちづくり活動チャレンジ提案事業補助金完了報告書

令和2年6月26日付け広陵町指令第290号において交付決定を受けた広陵町まちづくり活動チャレンジ提案事業補助金にかかる事業について、広陵町まちづくり活動チャレンジ提案事業補助金交付要綱第10条の規定に基づき、下記関係書類を添えて報告します。

記

- 1 団体名 六道山区ファミリー農園耕作者グループ
- 2 事業名 六道山区ファミリー農園共同耕作事業

添付書類

- 1 事業報告者（様式第7条）
- 2 事業収支決算書（様式第8条）
- 3 事業実施に要した経費に係る領収書の写し
- 4 その他

令和3年2月5日

広陵町長 殿

申請者 所在地 奈良県北葛城郡広陵町大字大塚 576-1

団体名 六道山区ファミリー農園耕作者グループ

代表者氏名 吉川英敏

広陵町まちづくり活動チャレンジ提案事業補助金事業報告書

令和2年度広陵町まちづくり活動チャレンジ提案事業補助金の交付決定通知のあった事業について、次の通り実績を報告します。

記

1 交付決定内容

事業名	六道山区ファミリー農園共同耕作事業
補助金対象経費合計額	123,553円（実績額）
交付決定額	50,000円
活動実施期間	令和2年6月27日から 令和3年1月31日まで

※事業報告書及び事業収支決算書は、原則公開となります。

※事業対象経費の支出は、項目ごとに領収書の写しをA4判にまとめて添付してください。

2 事業実施内容

団 体 名： 六道山区ファミリー農園耕作者グループ

令和2年度の事業目的等に対する達成度及び評価	目的の達成度	4	(5段階で5点を最高点として5点から1点の間で自己評価してください)
	評価理由	多種類の野菜作りができたこと。中でも健康野菜について好評であった。提供先(販売先)が回を増すごとに増加している。	
	改善事項等	<p>農家、非農家との関係は良好であり、苗の提供や日常の生育状態の観察について協力をいただき、追肥の時期や灌水、害虫駆除等の指導を受けることができた。</p> <p>一方、耕作者グループへの参加者勧誘活動が弱いためメンバーの増強には至らなかったが、収穫野菜の訪問販売には理解をいただき、購入者の増加につながっている。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のこともあり、大人や子供が参加してのイベント的な収穫祭はできなかったが、一年を通じ好天に恵まれたため、耕作者メンバー同士のコミュニティや健康づくりには予想以上の結果があったと感じている。</p>	
事業の成果または効果	<p><作付けと管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良： 畑の土壌改良のため葛城市の酪農者から牛糞ペレットを2トン車で一車分を購入し、土壌改良を行った。初年度は肥料が過多のため秋野菜の生育に不都合があったが、年を超えての春野菜(キャベツ、イチゴ)については順調に生育しており効果が期待される。 ・種まき： 採算性の面から「キャベツ」「白菜」「ブロッコリー」「カリフラワー」についてはトレーに種まきを行い畑地に苗を移植することとした。雨不足と水やりの仕方により発芽率の問題はあったが、問題点を整理し次年度につなげることができた。 苗の購入を控える意味で、種から育てることに工夫を重ねていきたい。 11月に種をまいた「ソラマメ」「エンドウ豆」については、順調に生育し、発芽率も100%近くあり収穫量が期待される。 8月に植えた「秋じゃがいも」は、種芋をカットせずに植え付けるので収穫量の効率は冬ジャガイモに比べかなり低い。 ・苗植え： 「キャベツ」「白菜」の発芽率が悪かったので地元育苗農家から苗を仕入することとなった。 		

来春に収穫する「イチゴ」については近隣農家のイチゴ苗を提供していただいた。また、「玉ねぎ苗」は地元育苗農家から仕入れとなった。

- ・耕作の管理： 害虫駆除は「キャベツ」「白菜」のみで最小限にとどめた。しかし、カラスなどの鳥については防鳥網を張り、防ぐことができた。また、畝と畝との間に使用後のマルチを敷き詰めることにより除草作業は少なくなった。併せて、マルチの再利用ができたため産廃環境面でも取り組みの成果があった。

畝づくりについては、春に購入した耕運機とメンバーが所有するミニ耕運機、そして近隣農家の応援によるトラクターの活用でスムーズに実施することができた。

<収穫野菜>

- ・菊 芋： 3月に種芋を植え付けし11月から順次収穫した。初めての栽培であったが収穫量も多くあった。血流促進効果があり、糖尿病や肥満気味の人からの人気よかった。
- ・かぼちゃ： 4月に植え付けし、7月収穫する。耕作放棄地の畑であり肥料不足と天候不順のためより収穫量は少ない。収穫後に、土地を肥やすため牛糞を散布する。
- ・すいか： 「かぼちゃ」と同様で4月に植え付けし、7月収穫する。耕作放棄地の畑であり肥料不足と天候不順のため収穫量は少ない。収穫後に、土地を肥やすため牛糞を散布する。
- ・枝 豆： 5月に種まきを行い7月に収穫。
- ・サツマイモ： 5月に苗を植え付けし10月に収穫した。雨が少なかったが、それなりの収穫量であった。
- ・トウモロコシ： 4月と5月に種まきを行い7月から8月に収穫。
天候不順と、害虫駆除の工夫が必要。
- ・「キャベツ」「白菜」「ブロッコリー」「カリフラワー」： 土壌改良の影響と雨不足により生育の遅れがあり、1月に入っても収穫途中となった。
- ・「秋じゃがいも」： 8月に種芋を植え付け11月下旬に収穫した。
種芋をカットせずに1個を丸ごと植えるので、収穫量が少ない。

<収穫野菜の販売>

六道山区内の各家庭に訪問販売を行う。販売単価は100円から300円位を単位とし、市価の3分の1から2分の1位で提供をした。販売戸数は約80件となる。いずれも高齢者所帯で買い物困難者がほとんどであり、旬野菜で喜ばれている。

<耕作作業体制>

耕作メンバーは 男性4名、女性4名、農業従事者2名で行っ

	<p>ている。いずれも高齢者であり、種まき、苗植え、収穫作業の時間は毎回約1時間から1時間30分ぐらいである。</p> <p>畝づくりについては、メンバーの人たちが来る前にすべて機械作業で済ませるので、時間も効率よく使っている。</p> <p>農業倉庫は、以前農家が使っていたものがあるのでそれを活用し、肥料や資材の保管には恵まれた結果となった。</p>
<p>事業の反省点及び課題</p>	<p>① 作付け、耕作面 土壌の性質を考えた土づくりと肥料の適量についての工夫が必要であるが、毎年の反省点を整理し、次年度につなげていくこととする。また、種まき後の灌水についても工夫しながら行わなければ発芽率の減少と苗の生育不足となってしまう。20メートルの畝に苗を植えても大きさにばらつきがあり工夫が必要。</p> <p>② 耕作メンバーの勧誘 耕作参加者の勧誘を、一年を通じ行ってきたが結果が見られなかった。次年度からは工夫を凝らしながら勧誘に取り組みたい。そのためにも、作業時間や年間を通じてのリズムについても具体的に明示をしていきたい。毎回約1時間から1時間30分ぐらいで終われるように取り組んでいる。</p> <p>③ 資材のリユースによる作業時間の短縮と費用節減 収穫後のマルチは、畝と畝との間に敷き詰め草が生えてこないよう再利用している。また、防虫ネットは、エンドウ豆のネットに利用している。防虫のためのトンネルに使用した不織布についても繰り返し使用することとしている。敷き藁については細かく刻み、畝づくりの際に肥料と一緒に土中に混ぜ込む。</p>
<p>活 動 名</p>	<p>内 容</p>
<p>トウモロコシ 種まきと ネットでの防虫対策</p>	<p>7月7日 7月収穫分のネットカバー、9月収穫分の種まき 参加者数 5名</p>
<p>スイカ、カボチャ収穫</p>	<p>7月15日 スイカ 10個、かぼちゃ 50個収穫 参加者数 8名</p>
<p>カボチャ販売</p>	<p>7月16日 かぼちゃ販売 50件訪問販売 参加者数 6名</p>
<p>菊芋 除草、剪定</p>	<p>7月31日 菊芋 除草等手入れ 参加者数 3名</p>
<p>牛糞肥料散布</p>	<p>8月6日 牛糞肥料牧場より購入し散布 参加者数 8名</p>
<p>種まき</p>	<p>8月25日 カリフラワー、キャベツの種まき 参加者数 7名</p>

ジャガイモ植え付け	8月31日 ジャガイモの種芋植え付け	参加者数 8名
イチゴ苗植え	9月13日 イチゴ苗植え	参加者数 9名
野菜苗植え付け	9月21日 キャベツ、カリフラワー、白菜、ブロッコリー 苗植え付け	参加者数 8名
サツマイモ収穫、販売	10月14日 サツマイモ訪問販売 80 kg	参加者数 8名
ニンニク植え付け	10月14日 ニンニク苗植え付け	参加者数 8名
ニンニク、玉ねぎ植え付け	10月30日 玉ねぎ、そら豆 苗植え付け	参加者数 9名
エンドウ豆種まき	11月14日 エンドウ豆種まき	参加者数 8名
菊芋収穫、販売	11月19日 菊芋訪問販売 70 kg	
ジャガイモ収穫、販売	11月25日 ジャガイモ収穫、訪問販売 120 kg	参加者数 7名
菊芋収穫、白菜収穫	12月8日 菊芋収穫、白菜収穫	参加者数 6名
白菜等収穫、販売	1月17日 白菜、キャベツ、ブロッコリー、菊芋販売	参加者 6名
翌年以降の事業 及び今後の具体的 方針について (活動内容、財 源、他団体との連 携)	<p>耕作経験も3年目となるので作業のリズムを会得できた。</p> <p>元肥料や追肥料の施しについて農家の指導を受けながら、人に誇れる野菜作りに努めたい。本年は糖尿病に良いという菊芋を初めて作ってみたが、大変重宝され人気野菜となったため、次年度も引き続き栽培し需要の増加につなげていきたい。次年度5月の収穫予定であるが「いちご」を300本ほど栽培しているので、これを地区内の子供たちにコミュニティの場として提供し、「いちご狩り」をやりたいと企画中である。一方財源については、コスト計算ができるようになってきたので、売れ残らないように地域の人たちに安く買っていただくこととする。</p> <p>採算面の効率を鑑み苗の購入を控え、できるだけ種から育てることに力を注ぎたいと考えます。そのためには、近隣農家の指導と協力、連携が必要となる。</p> <p>隣接地で柑橘類や「イチジク」などの果樹栽培をされているので、遊休農地があれば挑戦したいと考えています。</p>	

※ 活動内容等の記入に際し、上記枠内を超える場合は、任意の書式にて提出してください。